

# 深い学びを実現する 富士山学習

地域の  
特色ある  
活動

## 静岡県富士宮市教育委員会

### 1 はじめに

富士宮市は、静岡県の北東部、富士山西南麓に位置するまちです。四季折々の様々な姿を見せる富士山は、富士宮市民にとって心の拠り所となっています。富士宮市教育委員会では、「富士山を心に、夢をもって生きる子ども」の育成を目指し、教育活動を進めているところです。今回、その特色ある教育活動として、市内の公立全小・中学校において実施している「富士山学習」を紹介いたします。

### 2 富士山学習の歩み

富士山学習の起源は、平成4年まで遡ります。当時、富士宮第二中学校において、理科の授業で富士山の地質について学んだ生徒から、富士山に関して更に学習する機会を求め声が上がりました。その思いに応えるために、富士宮第二中学校が生み出した問題解決的な学習が富士山学習でした。

平成10年度には、学習指導要領が改訂され、「総合的な学習の時間」が創設されることを期に、市内の公立全小・中学校の総合的な学習の時間として「富士山学習」が始まりました。

平成20年度には、それまで大切にしてきた「何を学んだのか」に加えて、学習過程である「どのように学んだのか」を重視して、富士山学習は、PART IIに発展しました。このことは、現行の学習指導要領において示された主体的・対話的で深い学びにつながるものと捉えています。以降、今日まで学習過程の質的向上を目指して、富士山学習の実践

を積み重ねてきました。

### 3 探究的な学習に取り組む富士山学習



ここで、富士山学習がどのように進んでいくのか説明いたします。まず、地域に目を向けることで学習が始まります。そこから湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、子供たちは、

地域の特性に応じた課題を発見していきます。課題として取り上げられる領域は、福祉やまちづくり、環境、歴史など多岐に渡ります。そして、例えば学校に市の職員を招いたり米作りを営む農家の方を訪ねたり等、子供たちは、課題解決に向け、地域と積極的に関わっていきます。そのことで得られた情報を活用することが、自分の考えの形成につながっていきます。さらに、学習成果を地域と共有するため、発表会を実施しています。そのような一連の学習の中で、体験活動や言語活動が繰り返し行われ、各教科等で育成された資質・能力が活用・発揮されることで、子供たちは、より深く学んでいきます。このように富士山学習は、子供の「知りたい」という興味・関心と、そこから生まれる「学びたい」という意欲に基づき、富士山や富士宮の「人・もの・こと」と関わりながら展開していきます。

探究的な学習の実現には、各教科等を横断

した学習過程を質的に高めていくことが必要です。そのため市では、「富士山学習研究委員会」という組織を設け、子供の姿から方向性や具体的な取組を検討しています。推進役となる教員が探究的な学習について研究を進め、各校の富士山学習を支援する役割を担っています。また、教科等横断的な学習を進めることで深い学びが実現するよう、各教科等の授業改善にも力を入れています。「市内全体研修会」という組織を設け、「富士山学習研究委員会」と授業改善の両輪として機能させることで、子供たちの探究的な学習の実現を目指しています。

#### 4 多様な考えに触れる富士山学習発表会



学習過程や学習成果をまとめ・表現し、他校や市民と共有することを目的

に、富士山学習発表会を開催しています。令和3年度までに23回の実施を重ねてきました。発表会は、プレゼンテーション発表の部、展示発表の部、ステージ発表の部による3部構成となっています。

プレゼンテーション発表の部では、ICTを活用しながら自身の取組を伝え、来場者と意見交換することで、対話する力の育成を目指します。展示発表の部では、一年間の学習をまとめた掲示物を通して、他校の学びを知ること、自分の学びを振り返る力の育成を目指します。ステージ発表の部では、舞台上に立ち、身振り手振りを交えながら伝えることで、自分の学びを自分の言葉で発信する力の育成を目指します。子供たちは、各部のねらいに応じて、表現力を身に付けていきます。

いずれの発表も、来場した方々から質問を受けたり他校の発表を聞いたり等、自分以外の考えに触れることができます。多様な考えに触れながら自分の学びを見直したり新たな発見に出会ったりすることで、子供の学びは深まっていきます。富士山学習発表会は、深

い学びを実現していくために、大変貴重な機会であると考えます。

#### 5 発展する富士山学習

予測困難な時代を生きる子供たちが、様々な課題と向き合いながら未来を切り拓いていくために、富士山学習の担う役割は大きいと考えます。今後、富士山学習が更に発展するためには、「育てたい資質・能力」「教科等間の連携や横断」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」の三つを意識して取り組んでいく必要があります。富士山学習として育てたい資質・能力を明確にし、それに向けて教科等での学びと富士山学習での学びをつなぐことで、カリキュラム・マネジメントの視点から授業改善を進めることができます。そのことにより多様な学習を生み出したり、教師の専門性を生かした支援を促したりする等、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めることができると考えます。

富士山学習の更なる発展のため、富士山学習発表会の開催方法の変更にも挑戦をしています。これまでは市民文化会館を会場に、集中型で実施してきましたが、令和4年度からは中学校区を基にした六つの会場において開催する計画です。分散型での実施により、地域での学びを地域と共有すると共に、更に深い学びが生まれることを目指していきます。

#### 6 おわりに

これまで富士山学習は、地域の方々に支えられながら発展してきました。各校の富士山学習がより一層特色あるものになることにより、深い学びが実現することを期待しています。そして、今後も「富士山を心に、夢をもって生きる子ども」の育成を目指し、富士山学習を一步ずつ前に進めてまいります。



教育長  
池谷 眞徳